

グリュ経営コンサルタント事務所 (東京)

**中小企業の経営者必見！
経営体質改善を支援する「企業経営ドクター」**

中 小企業庁によると、中小企業は日本の企業数で約99・7%を占める。就労人口では約70%、企業が生産活動を通じて新たに生み出す価値である付加価値額では、約50%に及ぶ。

「不況に対抗するために、経営者は生産や営業に集中しているため、経営がおろそかになり、手遅れになるまで見過ごしてしまう問題も出てくるでしょう。経営者の方が不況を乗り切るため、経営の体質改善を支援する『企業経営のドクター』でありたいですね」



津留崎 勝己 代表

こう話すのは、グリュ経営コンサルタント事務所の津留崎勝己代表だ。

小売業や機械製造業、建設業などの経営支援を展開している同事務所。支援内容は、経営戦略の立案や社員教育、融資対策、法務相談、事業承継など。中小企業の「知恵蔵」として注目が集まっている。

顧客企業の経営体質の改善を進める上で、同事務所が推進している独自の方法論の1つに「QCDSMEI」のチェックがある。

「QCDSMEI」とは、英字の頭文字で「Quality (品質)・Cost (コスト)・Delivery (納期)・Safety (安全)・Morale (士気)・Environment (環境)・Information (情報)」を意味する。

顧客企業ごとに、一社一

社綿密なヒアリングを実施し、企業活動における弱点をこの7項目に当てはめて分析。「見える化」した弱点は、仕組みとしてマニュアル化する。その後、このマニュアルを基に、PDCAサイクルを回し、顧客の確かな利益に繋げている。

「そこで5S(整理、整頓、清潔、清掃、躰)も徹底して仕事の仕組みを変えて、標準化を進め、効率化し、現場力の向上も進めています」(津留崎代表)

さらに、経営者に有力な融資情報も提供している。銀行融資だけでなく公的資金を受けられる手法などがある。経営者は日々の業務に忙殺されていると、これらを知る機会が無い。

「事務所の名に掲げた『グリュ』とは、フランス語で

業務内容

- ・経営戦略…3カ年経営計画、SWOT分析
- ・営業戦略…営業企画、マーケティング、市場分析
- ・法務相談…独占禁止法、知的財産権、特許、実用新案、商標登録、意匠登録、業務継承
- ・社員教育…5S(整理、整頓、清潔、清掃、躰)、科学的解法(QC7つ道具)、新QC7つ道具など
- ・企業診断…財務分析

プロフィール

内閣府認証 特定非営利活動法人
日本経営士協会 経営士登録No.32111
一部上場企業品質管理部長、事業統括部長、理事・営業本部副本部長などを経て独立
現在 日本大学生産工学部に教鞭を執る
学歴
早稲田大学社会科学部卒業
青山学院大学院国際経営学専攻修士
MBA(経営学修士)
日本大学生産工学部卒業

業務内容と津留崎代表プロフィール

大空に飛び立つ鶴||津留を意味しています」

と、話す津留崎代表は、1971年に日本大学工学部を卒業後、一部上場の大手企業に入社。品質管理部長や事業統括部長、理事・営業本部副本部長などを歴任してきた。

中小経営者のみならず

大学で次代を担う若者も教育

一方で、青山学院大学院でMBA(経営学修士)を取得し、早稲田大学でも経営学を学ぶなど、働きながらスキルも蓄えた。2007年の退職後、同事務所を設立。現在、内閣府公認日本経営士協会で経営士の資格を持ち、日本大学生産工学部で教鞭を執っている。

大手企業勤務時代は、全国700カ所の現場や支店を巡回し、のべ数千人の社員教育に携わってきた津留崎代表。今後の展望をこのように話す。

「不況を打破する企業経営体質改善を更に広めていくと共に、これからの日本を担う若者の教育も支援し、日本の活性化の一助になつていきたいですね」(有)

【会社データ】

本社||東京都練馬区氷川台
3-41-13

☎||03-3994-4669

設立||2007年3月

事業内容||経営戦略の立案や社員教育、融資対策、法務相談、事業承継支援

<http://www.grue-consul.com>